

2023 年 1 月 11 日

## 2022 年度聖路加国際大学大学院修士論文

コロナ禍における知的障害者の生活習慣と肥満の要因

Lifestyle habitat of people with intellectual disability and  
their causes of obesity under COVID-19

21MN027

中島優奈

【目的】近年、生活習慣病には従来の要因に加え、新型コロナウイルス感染症の蔓延という新たな要因が浮上してきているが、コロナ禍における知的障害者の生活習慣の変化と肥満の要因については検討されていない。本研究は、知的障害者に関わる人々に質問紙調査と健康診断結果の集計を行い、コロナによる知的障害者の生活習慣の変化と肥満の要因を明らかにすることで、感染症流行下における肥満予防の支援方策を考案することを目的とした。

【方法】「生活介護」や「就労継続支援 B 型」等の障害者福祉サービスを利用している知的障害者のうち、研究対象者本人及び、代諾者から同意を得られた者に、質問紙調査及び、2018 年～2021 年の健診結果の集計を行った。コロナ流行前後の健診結果の比較については対応のある T 検定、健診結果と生活習慣の関連についてはスピアマンの順位相関係数を算出した。

【結果】質問紙の有効回収数は 20 件であった（回収率は 83%）。2018 年～2019 年（コロナ流行前）と、2020 年～2021 年（コロナ流行後）の健診結果の平均変化量について、すべての項目で有意な差はみられなかった（体重,  $p < .48$ 、BMI,  $p < .73$ 、トリグリセリド,  $p < .43$ 、HDL コレステロール,  $p < .80$ 、LDL コレステロール,  $p < .92$ 、腹囲,  $p < .29$ 、空腹時血糖,  $p < .76$ 、収縮期血圧,  $p < .23$ 、拡張期血圧,  $p < .31$ ）。コロナによる生活習慣の変化と肥満の関連としては、LDL コレステロールと【菓子類の摂取量の増加】（ $r = .545, p < .05$ ）、拡張期血圧と【甘い飲み物を飲むことが増えた】（ $r = .497, p < .05$ ）、トリグリセリドと【ストレスをかかえている様子がある】（ $r = .731, p < .05$ ）について有意な正の相関が認められた。また、その他の項目（体重、BMI、HDL コレステロール、腹囲、空腹時血糖、収縮期血圧）と生活習慣について有意な差はみられなかった。

【結論】コロナ前後の肥満の実態について統計学的に有意な差は認められなかった。しかし、一部の対象者についてはコロナによる生活習慣の変化と肥満について、固有の課題を有していた。肥満の要因には、外出の減少に伴う食事内容の変化やエネルギーの収支の乱れ、食べ物への興味の移行という知的障害者の特徴的な食習慣の変化があることが明らかとなった。また、外出の制限に伴う対象者にとっての楽しみの減少、生活リズムの変化に対する対象者の理解と適応、コロナ終息の目処の立たない現状によるストレスも肥満の要因であることがわかった。在宅で生活する知的障害者の肥満対策としては、コロナ禍における知的障害者の肥満の特徴を把握した上で健康課題を明確化し、対象特性に応じた個別の健康教育を実施すること。そして対象者の社会参加の促進に向けた広報活動を行うことが、看護職の重要な支援として示された。